

熊本学園大学水俣学研究センター

2011(平成23)年度 水俣学若手研究者セミナー 開催要項

水俣学研究センターでは、水俣学の試みとその成果について議論し、また本研究機関を積極的に活用していただくため、「水俣学若手研究者セミナー」を開催します。つきましては、全国の大学関係者、大学院生およびPDおよび在野の研究者を対象に下記の要領で受講者を募集します。

本年度のセミナーでは、「水俣病事件の現在と水俣学の試み」をテーマに、本学教員・ゲスト講師・研究員による発表セミナーに続いて、現地フィールドワーク、受講者による討論を行ないます。

また、資料や設備などの水俣学研究センターの紹介、図書室や展示などの施設案内も合わせて実施します。ご応募をお待ちしています。

記

1. 開催期間

2011年9月1日（木）～4日（日）の4日間

2. 開催場所

熊本学園大学水俣学現地研究センター（熊本県水俣市浜町2-7-13）

3. テーマ 「水俣病事件の現在と水俣学の試み」

水俣病の発生が公式に確認されてから56年。その間の歴史の堆積の上に現在の水俣病をめぐる様々な制度や政策がめまぐるしく移り変わり、水俣病の被害者はその中を生きてきました。

全国の大学では、環境問題に関する講義がおかれ、その中で必ずといっていいほど水俣病が取り上げられています。しかし、その一方、現在の水俣病をめぐる状況は分かりにくいとの声も聞かれます。

水俣学研究センターでは、地域に根ざし現地に学び、水俣病という負の経験を将来に生かすことを目指して、設立され、調査研究・教育に取り組んできました。今回のセミナーでは、私たちのそうした取り組みをベースに、次の世代を担う若手研究者に「水俣病事件の現在」を共有し、共に学ぶことを目的に開催します。

なお、水俣学のモットーである現地に学ぶことを大切にし、座学ばかりではなく現地でのフィールドワークを大切にします。

水俣病を直接研究テーマにするだけではなく、人類の負の遺産としての水俣病を学び、自分自身の研究活動に活かすことを目指す参加者を募集します。

4. セミナーの内容

(1) 水俣学研究センターの紹介と案内

(2) 水俣病事件に取り組んできた研究者及び地元の方々によるセミナー

原田正純 熊本学園大学水俣学研究センター顧問、医師 「水俣病患者と50年」

丸山定巳 熊本学園大学教授 「水俣病と地域社会」

花田昌宣 熊本学園大学水俣学研究センター長 「水俣学研究センターの試み」

宮北隆志 熊本学園大学水俣学現地研究センター長 「水俣・芦北の地域戦略」

ゲスト

淡路剛久 立教大学教授、日本環境会議 「水俣病事件と法」

(3) 地元からの報告

山下善寛 元新日本窒素労働組合委員長 「チッソと水俣病」

田中睦 水俣市立第一小学校教諭、水俣・芦北公害研究サークル会長

「公害教育と水俣病」

そのほか

(4) フィールドワークとその特徴

その1：[水俣を見る] 水俣病とその歴史

セミナーでの座学をふまえて、普通の水俣研修ではなかなか訪問できないところを、研究員とともに回ります。

水俣病患者多発地域の漁村、水俣市内：避病院跡、チッソ附属病院跡、旧工場、梅戸・明神地区、八幡プール及びダイオキシン汚染地域、

水俣の歴史：源光寺（隠れ念仏）、徳富生家、洲上毛銭碑、官軍兵士墓地など

その他 検討中

その2：[水俣病を聴く] 被害者のナラティブに接する

患者宅を訪問して、インタビューを実施することを計画しています。語り部やよく記録のとられている患者たちばかりではなく、これまであまり発言してこなかった患者宅を水俣学研究センター研究員とともに少人数で訪問しインタビューをとり記録に残して行くことを計画しています。参加者と人数が確定してからインタビュー先を決定します。

5. 応募資格

(1) 大学院生あるいはPD、または左記に相当する研究歴を有し、積極的に参加する意思を持つ者。

(2) 大学などにポストを有する研究者で水俣病に関心を有する者。

(3) 学部生の場合、卒業研究で水俣病等を課題としている者は指導教員の推薦を得ること。

(4) 上記に該当しない場合は、ご相談ください。なお、「若手」とは年齢によるものとは考えておりません。

6. 募集人数 20名

7. 受講料無料（現地移動、フィールドワークにかかる費用は主催者が負担します。水俣までの旅費交通費、滞在期間中の宿泊費、食事代はご負担ください。）

8. 応募方法

- ① 略歴書（所定の書式を使用、メールアドレスを明記のこと）
- ② 自分の研究テーマ（1200字程度の発表内容を記載、様式自由）

9. 応募締切 2011年7月30日 [土曜日]

10. 受講者の決定

応募書類にもとづき、申し込み多数の場合には、水俣学研究センターにおいて選考の上、8月中旬に通知いたします。

11. スケジュール

9月1日（木）

11:00～12:30 水俣がはじめての人向けの水俣現地案内（資料館、主要地区巡回）

13:30～14:00 開会式および趣旨説明、参加者自己紹介

14:00～15:30 セミナー

「水俣学研究センターの試み」 花田昌宣

15:30～17:00 セミナー

「水俣病患者と50年」 原田正純

17:00～18:30 フィールドワークの準備ならびに受講者による発表と討論

19:00～21:30 懇親会（水俣市内）

9月2日（金）

9:30～11:00 セミナー

「水俣病と地域社会」 丸山定巳

11:00～12:30 セミナー

「水俣・芦北地域の地域戦略」 宮北隆志

午後 フィールドワーク (1) 水俣を見る

17時30～19時 フィールドワークの準備ならびに受講者による討論会

9月3日（土）

9:30～11:00 セミナー

「水俣病事件と法」 淡路剛久

11:00～12:30 セミナー

「チツソと水俣病」 山下善寛

「公害教育と水俣病」 田中 睦

午後 フィールドワーク (2) 水俣病を聴く

17時30～19時 参加者による討論会 湯の鶴温泉宿泊 (*当センターにて予約)

9月4日(日)

9:30～11:00 教員によるセミナー (予備)

11:00～12:30 参加者による討論会

午後 オプションツアー (自由参加)

曾木発電所 (チツソ発祥の地、鹿児島県大口市)

12 参考文献 (事前学習)

参加者は、事前に学習して参加することが望ましい

1) 『ガイドブック：水俣を歩き、ミナマタに学ぶ』水俣学ブックレット 熊本日日新聞社ほか

2) 『水俣学講義』(日本評論社) 『水俣学研究序説』(藤原書店)

『水俣学研究』(水俣学研究センター紀要) 所収論文

3) 水俣学研究センターホームページ

(書籍・紀要に関しては水俣学研究センターホームページ上の出版物、ブックレットのページをご覧ください)

13. その他

① 受講者はセミナーの全日程に参加すること。

② セミナー開催期間中の宿泊場所は、ご案内いたしますが、各受講者が手配してください。

*9/3宿泊に関しては当センターにて予約いたします。(1泊2食付き6000円)

③ フィールドワークでの現地移動は、マイクロバス、水俣学研究センターのワゴン車などを使います。

④ プログラムの順序、フィールドワークの都合や受講者の人数等に応じて変更の可能性があります。また、地域の行事があるときは参加を検討します。

⑤ 応募書類は返却しません。なお、個人情報に関しては本セミナー以外の目的には使用しません。

14. 応募／問合せ先

〒862-8680 熊本市大江2-5-1

熊本学園大学水俣学研究センター 宛

minamata@kumagaku.ac.jp

096-364-8913 (ダイヤルイン)

宿泊について

ご宿泊につきましては、ご自身でご予約くださいますようお願い申し上げます。

* 9/3 湯の鶴温泉宿泊に関しましては、当センターで予約いたします。

(1泊2食付き 6000円)

<宿泊先のご案内>

* スーパーホテル city 水俣

〒867-0043 水俣市大黒町 1-1-38

TEL 0966-63-9000 FAX 0966-63-9150

http://www.superhotel.co.jp/h_links/minamata/minamata.html

* ビジネスホテルサンライト

〒867-0045 水俣市桜井町 3-2-31

TEL 0966-63-0045 FAX 0966-62-1220

<http://www7.ocn.ne.jp/~sunlight/>

<その他、旅館等の問合せ先>

観光物産協会エコみなまた

〒867-0002: 水俣市初野 305-1

(新水俣駅構内)

<http://www.eco-minamata.jp/top.php>

